

令和元年度 実践記録集

学校名 新居浜市立泉川中学校

●主な活動内容について

【 2年「 小中合同防災遠足（地域とともに動く） 】



(ねらい)

- 小学生や地域の方との交流を通して、災害時や非常時に中学生としてできることを体験したり、考えたりする。



(活動の実際)

- 小学校2年生をエスコートしながら校区内を通って目的地に向かい、昼食は地域の方による炊き出しをいっしょに食べた。また、帰りは自宅まで責任をもって送り届けた。

【 3年「 『あいロード』美化活動 」(地域に対してできることを考え、動く)】



(ねらい)

- 泉川校区のシンボルとも言える、校区の中心を通る国道バイパス（通称『あいロード』）の美化活動及び管理を校区住民とともにやっていく。



(活動の実際)

- 総合的な学習の時間で『あいロード』美化活動を実施した。『あいロード』に植える花の苗は、地域住民とともに公民館で苗植えをし、花が咲くまで育てたものを使用している。そして、年間を通して、地域の力を借りながらも自分たちの手で管理していった。

● 主な活動内容について

【 4年「そうびらき ぶらりウォーク」 】

(ねらい)



惣開校区の歴史や産業遺跡、住友企業グループと惣開との関わりなどについて調べる中で、新居浜の発展の歴史や誇る文化・史跡について理解し、地域を愛し、誇りに思う心情と、地域文化のすばらしさを実感し、伝承し守っていかうとする態度を育てる。

(活動の実際)

4年生児童が社会科の学習を通して、別子銅山の歴史や惣開との関わりなどについて調べ学習に取り組んだ。この活動を通して学んだことを、惣開校区にある歴史的・文化的な史跡を巡り、ガイド役となり保護者や地域の方々に紹介した。自分たちのふるさとの魅力を発見し、地域を愛する心情も深めることができた。



【 1年「いきものとなかよし」 】

【 5年「王子ヶ丘から発信！ 渡り蝶アサギマダラを呼ぼう」 】

(ねらい)



学校に隣接する王子ヶ丘の身近な自然に触れる中で、動植物に親しみ、動植物の命を大切にしようとする心情を育てる。また、フジバカマを育て渡り蝶であるアサギマダラを呼ぶ活動に取り組み、環境を守り生命を慈しむ心情や実践力を育てる。

(活動の実際)

1年生は、校舎内や王子ヶ丘の草むらで生き物を見つけ、触れ合う活動を通して、生き物の命の大切さを学ぶことができた。捕まえた生き物を見る1年生のまなざしはとても輝いていた。



惣開小学校の児童は、中庭にあるフジバカマガーデンに飛来するアサギマダラを毎年楽しみにしている。特に

5年生は、愛媛県総合科学博物館から学芸員を招いてマーキングの仕方を学習する活動もあるため、他の学年以上にアサギマダラに対する関心が高い。南西諸島から飛来するアサギマダラの特長等を知ること、広い視野での環境教育を推進することに結びついている。

● 主な活動内容について

【 1年 「大しまたんけんにいこう」 】

(活動の実際)

- ・ 地域の方が利用する渡海船に乗って大島交流センターに行き、大島のいいところや歴史について話を聞いた。



(大島たんけんの様子)

【 2年 「町たんけんをしよう」 】

(活動の実際)

- ・ 町たんけんとして多喜浜漁港へ赴き、漁港の見学や漁師の方へのインタビューを行った。インタビューの内容を事前の授業で話し合うことで、本活動への意欲を高めた。



(町たんけんの様子)

【 3年 「塩田ウォーク」「塩ってどんなもの」 】

(活動の実際)

- ・ 多喜浜塩田に所縁のある場所を巡り、学習を深めた6年生に各場所についての説明をしてもらった。塩田資料館建設推進委員の方々にも補足の説明をしていただいた。
- ・ 塩の特性や塩の作り方など、自分が知りたいことについて調べる活動を通して、塩についての理解を深めることができた。



(塩田ウォークの様子)

【 4年 「多喜浜の昔 知りたいな」 】

(活動の実際)

- ・ 社会科の学習と関連付けながら、多喜浜塩田の歴史や未来へ伝えようとする取組について調べ、理解を深めた。
- ・ 地域の方と一緒に塩づくり体験を行った。
- ・ 今も多喜浜に残る精神文化「かしょい」(相互扶助・助け合い)について、地域の方に詳しく教えていただいた。



(塩田学習の様子)

【 6年 「地域の誇り多喜浜塩田再発見」 】

(活動の実際)

- ・ これから多喜浜塩田について学習を深めていく3年生と史跡巡りを行い、案内役を務めた。事前活動として、地域の方と担当の史跡に出向いて詳しく話を聞き、3年生に伝えるように発表資料等をまとめた。地域の方々の思いも含め、しっかりと多喜浜塩田の歴史を伝えることができた。
- ・ 今年度より海洋教育をスタートさせた。9月に「海っこ開き」と題して、総合科学博物館より講師を招き、世界の海について講演をしていただくとともに、校区内にある「黒島海浜公園」にて、磯遊び活動を行った。どちらの活動も子どもたちにとって有意義な活動となった。



(塩田遺産ガイドの様子)



(海っこ開きの様子)

○ 海は●●だ。 ⇒命の源、食の宝庫

○ 日本の国土・領海 ⇒世界第6位

○ 99%は海洋輸送に頼っている。

○ 海は大きな循環を生み出している。気候の安定に貢献。

▲ 海面から3,000mの深層まで、平均0,037°Cの水温上昇が起きている。

▲ ⇒地球温暖化の80%を海が吸収している。その結果が0,037°Cの温度上昇。

それが大気中の戻されると、37°Cの気温上昇につながる。⇒海の恩恵

★海洋基本法…2007年4月20日成立、7月20日施行

海役割増大 ⇒ 特に、⑫「海洋に関する国民の理解の増進」

(第28条) 学校教育推進

(第16条) 海洋基本計画の策定 ⇒5年ごとの見直し

海洋人材の育成と国民理解の増進 ⇒専門家、子どもや若者への教育

(°°) **2025年までに全市町村で海洋教育を実践!** ⇒学習指導要領へ!

SDGs (持続可能な開発目標) ⇒⑭海の豊かさを守ろう⇒10のターゲット⇒指標が示される
世界共通の目標であるSDGsの14番目に海の豊かさを守ることが明記された。

★海洋教育とは何を学ぶものか

Ocean Literacy(海洋リテラシー) ⇒知識と活用力 「NOAA 米国海洋大気局パンフ」

⇒ 私たちが海洋に与える影響、海洋が私たちに与える影響

7つの重要原理と45の基本理念⇒ 幼稚園から高校まで系統的に教える。

◎ いわゆるカリキュラムマネジメントか?

◎ 国連は2021~2030年までの10年間で「**持続可能な開発のための海洋科学の10年**」と定めた。SDGsとの連携。2017年にはOcean Literacy for Allを発刊。

◎ **海洋政策研究財団** ⇒海洋教育の定義

◎ 海洋教育のグランドデザイン ⇒小学校の海洋教育の概念図掲載

★海洋教育の学び方

○ 専門家の話 ○ 調べ学習 ○ 実際に海に行く ● 海のないところで海を学ぶ

⇒知識の関連化を図る。海のないところでも学べる工夫。

◎ ワークショップ ⇒**「珊瑚のテリトリーウォーズ」**

◎ 群衆で生きる。クローン繁殖。1年間に5cm成長。褐虫藻との共生で90% energy

◎ 25年間の珊瑚の状況。海水温30°C、30日間で壊滅的打撃。オニヒトデ、貝、台風

◆ **4種類の珊瑚の特徴と危険因子の関係をカードに反映したゲーム。**



(研修会の様子)



(今宮先生の講演)



(ワークショップ)